

(十一) 白田・大洞庵石塔群

町文化財 平成元年一月指定

白田の湯ヶ岡にある高羽家の庭先には多くの石でできた塔があります。戦いに敗れて亡くなった人をまつた塔であるといわれたり、腰の病気を治してくれると信仰されたりしています。

多くの石塔は、ばらばらになった部分を新たに積みなおされたものです。中ほどにある大きな石塔は、ほぼ元の形ですが、これも一部が積みなおされています。石塔は、鎌倉時代から作られ始め、形などから一三〇〇年代からその後には建てられたと考えられています。

どうしてこの場所に多くの石塔が建てられたかはわかっていません。しかし、この場所は、白田にある普応寺がもととあった場所であると考えられています。また、大川の三島神社を建て直したことを書いた享徳三年（一四五四年）の棟札には、白田を治めた人が神社の建て直しに関わったと書いてあり、明応

九年（一五〇〇年）の棟札にも「白田御代官」とあります。このことから、白田にこのあたりを治める人が住んでいたことが分かります。石塔は、このような人が建てたものであるとも考えられています。

